

令和7年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立川辺小学校

令和8年2月24日

大阪市立川辺小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・児童は自信がなく、自己肯定感が低い状態である。自信を持って取り組める児童の育成が必要である。また、各学級が工夫して運動に取り組むことによって、全国体力運動能力・運動習慣等調査における全国平均に近づいてきた。
- ・学力が大阪市小学校学力経年調査の結果から全市平均より下回る学年や教科がある結果となっているため、基礎基本から身につけさせていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の児童アンケートにおける「自分には良いところや得意なことがある」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を令和6年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・「授業はよくわかる」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を51%以上にする。
- ・「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を25%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・デジタルドリルを日々授業で活用し、1人1台学習者用端末等 ICT 機器を活用する。
3～6年生においては、1日1回以上、1・2年生においては、週1回以上タブレット端末を活用する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思っっていますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の児童アンケートにおける「自分には良いところや得意なことがある」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を81%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標

- ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を32.3%以上にする。
- ・学校生活アンケートにおける「授業はよくわかる」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を52%以上にする。
- ・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を48%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。）
- ・週に1回ゆとりの日を設定し、3か月平均残業時間の70時間越えする教職員数を0にする。
- ・年次有給休暇などの休暇を年10日以上取得する教職員の割合を86%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

中期目標の達成にむけて、今年度の年度目標は達成できた。今後も達成水準を見直しながら、継続して取り組んでいく。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

・算数の平均正答率の各学年1ポイントの向上は達成しなかった。教員研修などを通じて、算数科の学力向上に努めていく。その他「理科の勉強は好きですか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目では、年度目標を達成できた。

・学校アンケートの結果は「授業はよくわかる」「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目についても目標を達成できた。今後も継続して取り組んでいく。

以外の項目は年度目標を達成できた。

【学びを支える教育環境の充実】

・児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は5月～12月で平均31.7%であり、目標の50%以上を達成できなかった。

今後、心の天気を全クラス毎日入力することや、学習でも活用していけるように使い方の例などを共有していくなど継続して取り組んでいく。

・児童アンケートにおける「本を読むのは楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割足は88.95%で達成した。継続して取り組んでいく。

・教職員の在校時間減少傾向であり、10日以上の休暇取得でも達成できた。校務支援PCの持ち帰りが多く、実際の負担軽減策は今後も探っていく必要がある。

(様式2)

大阪市立川辺小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思っていますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の児童アンケートにおける「自分には良いところや得意なことがある」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を81%以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が安心して学校に登校でき、楽しんで生活できる環境を整える。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思っていますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。 ・ 児童アンケートにおける「きまりやルールを守る」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を86%以上にする。 	C
<p>取組内容②【基本的な方向1-1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校安心ルール」の活用により規範意識を醸成する。 ・ 「いじめ・いのちについて考える日」や「いじめアンケート」の実施により、いじめの未然防止、早期発見の取組の徹底につなげる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。 ・ 年に10回以上、いじめや問題行動・子どもの気になることの情報共有する場を設定し、全教職員で早期対応に取り組む。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向1-2、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校の未然防止や早期発見・解決に向けた取り組みを行う。 	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解研修を年1回以上実施し、教職員の児童理解を深め、校内支援体制づくりを推進する。 ・不登校家庭に対し、教職員だけでなくSC・SSWなど外部機関とも協力を図り、電話連絡や家庭訪問を行う。また、ICTを活用するなど様々な学習の参加形態を保護者に提示することにより、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 	C
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童がお互いの違いを認め合い、友達を大切にする心情を育む指導を行う。 ・教職員は、児童の達成できたことや、児童の良いところを見つけて認め合い、自尊感情や自己有用感を高められるようにする。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおける「自分にはよいところや得意なところがある」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を81%以上にする。 ・人権を尊重する研修を年1回以上行い、推進していく。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思っていますか」の項目に対して、肯定的に回答した児童の割合が全体で79.4%で目標の81%以上を下回り、目標を達成できなかった。 ・児童アンケートにおける「きまりやルールを守る」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合が低学年98%、高学年93%、全体95%で目標の86%を大きく上回っている。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1-1、安全・安心な教育環境の実現】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合が全体で88.6%だったので、目標の81%以上を上回っており、達成している。 ・スクリーニング会議や安心安全部会を各10回以上行った。さらに急を要する場合には職員朝会等で児童についての情報共有をおこない、いじめや問題行動の早期対応・早期解決を図るよう取り組んだ。 	
<p>取組内容③【基本的な方向1-2、安全・安心な教育環境の実現】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校家庭に対するアプローチは行うことができている。学級担任だけでなく、SC、SSW、子どもサポートネットなど外部機関との連携を図っている。しかし不登校在籍比率については1.54%から3.2%へ上昇している。 	
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおける「自分にはよいところや得意なところがある」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合は92%以上であり、目標の81%以上を上回った。 ・外国人教育研修を入れて、人権を尊重する研修を年1回以上(今年度は2回)行った。 	

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】

- ・「きまりやルールを守る」という項目についてはアンケート結果と児童の実態に差があるため、それが埋まるよう取り組み続ける必要がある。
- ・まずは大人が学校のルールを頭に入れる必要がある。

取組内容②【基本的な方向1-1、安全・安心な教育環境の実現】

- ・最も肯定的な回答をすることができなかった数%に対してのアプローチを考えていく必要がある。
- ・早期発見、早期解決に向け、学年間のみでの共有ではなく校内での理解を深めていく必要がある。

取組内容③【基本的な方向1-2、安全・安心な教育環境の実現】

- ・不登校家庭について家庭内の問題が原因の場合、教職員にできることが限られており、取り組みが数値に反映させづらい。不登校の在籍比率ではなく、出席比率（リモート・フリースクール・デイサービス等）で比較してはどうか。

取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】

- ・今年度の出来事を踏まえ教職員がもっと人種差別等の人権侵害にアンテナを張れるような内容の研修が必要なのではないか。
- ・子どもたちの自己肯定感を高められるような取り組みを今後も実施していく必要がある。

大阪市立川辺小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を32.3%以上にする。 ・学校生活アンケートにおける「授業はよくわかる」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を52%以上にする。 ・学校生活アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を48%以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元内に1度は学習意欲を高める課題を設定することで、算数の学習の充実を図る。 ・授業の最後に自己を振り返る場を設定することで、主体的に学習に取り組む態度(自己調整力)の育成を図る。 ・年4回の校内研究授業を行い、教員の学習指導力の向上を図る。 <p style="text-align: right;">()</p>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4-1、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年から自然に親しむ活動を行い、児童が関心や意欲をもって問題に関わっていけるように理科学習の充実を図る。 <p style="text-align: right;">()</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 	

<p>取組内容③【基本的な方向4-2、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を工夫し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の観点から、学習課題に対して、自分の思いや考えを言ったり書いたり伝え合う場を工夫し、授業の中で友だちと交流し考えを深める学習を実施する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を32.3%以上にする。 ・学校生活アンケートにおける「授業はよくわかる」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を52%以上にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向5-1、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲的に運動（体を動かす遊びを含む）に取り組めるように、学年の発達に合わせた学習カード等を活用して意欲を高める。 ・多様な動きをつくる運動を積極的に授業に取り入れ、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせ、意欲的に体を動かす児童を育てる。 ・体育集会等での取り組みを充実させる。 <p style="text-align: right;">()</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が各自めあてをもって運動に取り組めるように、学習カードやタブレット端末等を活用するとともに、単元によっては、振り返りの時間を持ち次へと繋げる。 ・児童アンケートにおける「運動が好きだ。」の項目に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を48%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科の授業において学習意欲を高める課題設定を意識して進めたり、授業の最後に自己を振り返る場を設定したりすることで、主体的に学習に取り組む態度の育成を図った。 ・年4回の校内研究授業を行い、教員の指導力向上を図った。 ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対前年比が4年生15.1ポイント低下、5年生1.9ポイント低下、6年生10ポイント低下で目標を下回った。その結果、目標を達成できなかった。 <p>取組内容②【基本的な方向4-1、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合が全体で89.3%だったので、目標の77%以上を上回っており、達成している。 ・実験や観察などの体験を十分に行うことに加えて、児童用端末を活用した振り返りをこまめに行い、学力の定着も図ることができた。 <p>取組内容③【基本的な方向4-2、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的 	

な「思う」と回答した児童の割合が31.2%だったので、目標の32.3%以上を下回り、達成することができなかった。

- ・児童アンケートにおける「授業はよくわかる」の項目で、最も肯定的な回答をする児童が、低学年70.3%、高学年46.2%、全体58.25%で、目標の52%以上を上回り、達成している。

取組内容④【基本的な方向5-1、健やかな体の育成】

- ・児童アンケートの「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目で、最も肯定的な回答をした児童が、低学年92.9%、高学年67.2%、全体80.05%で目標の48%を上回り、達成している。
- ・児童アンケートで目標値を大きく上回っている。
- ・児童がめあてをもって運動に取り組めるよう、学習カード（なわとび・かけ足）や『みんなの体育』を活用したり、振り返りの時間を設定したりした。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・継続して取り組む
- ・経年調査の結果から（計算技能の向上など）を意識的に取り組んでいく
- ・児童が「たのしい」と思うことのできる授業づくりをすることで、学習に対して前向きに取り組むことができるようにする。

取組内容②【基本的な方向4-1、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・継続して取り組む。
- ・これまで以上に担任と専科が連携を図り学習を進めていく。

取組内容③【基本的な方向4-2、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・話し合い活動も含め、子どもたちが主体的に学習に参加できるような場の設定や工夫を今後も考え続ける必要がある。
- ・「授業がよくわかる」の項目の数値は達成できたが、中間評価よりも全体で約4%数値が下がった（中間62.5% 最終58.25%）ので、児童がわかると実感できるよう、さらなる授業力の向上が必要である。
（低学年 中間71.4% 最終70.3% 高学年 中間53.7% 最終46.2%）

取組内容④【基本的な方向5-1、健やかな体の育成】

- ・継続して取り組む。
- ・次年度はプールの改修工事があり運動場が少し狭くなる予定だが、今年度と同様に継続して取り組む。

大阪市立川辺小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。) ・週に1回ゆとりの日を設定し、3か月平均残業時間の70時間越えする教職員数を0にする。 ・年次有給休暇などの休暇を年10日以上取得する教職員の割合を86%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台学習者用端末等ICT機器を活用し、個に応じた学習を充実させるため、児童が意欲的に取り組むことができるようにする。 <p style="text-align: right;">()</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～6年生においては、1日1回以上、1年生においては、週1回以上タブレット端末を活用する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の学校閉庁日の設定、ゆとりの日の設定を行い、ワークライフバランスの実施を目指す。 <p style="text-align: right;">()</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回ゆとりの日を設定し、残業時間を減らす。 ・年次有給休暇などの休暇を年10日以上取得する教職員の割合を86%以上にする。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館開放や朝の読書タイムを活用することにより児童の読書量を増やし、言語活動の推進を図る。 <p style="text-align: right;">()</p>	B

指標

- ・ 児童アンケートにおける「本を読むのは楽しい」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を81%以上にする。
- ・ 読書ノートを活用し、高学年は年間2000ページ、中学年は50冊以上、低学年は70冊以上本を読む児童の割合を前年度より増やす。
- ・ 週1回の読書タイムを実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・ 児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は5月～12月で平均31.7%であり、目標の50%以上を達成できなかった。
- ・ 学習で使用したり、心の天気を入力したり、日々学習者用端末を活用している。しかし心の天気が入力できていない日もある。

取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・ 週1回ゆとりの日を設定し、残業時間は減ってきている。
- ・ 10日以上休暇を取っている教職員が現段階で88.46%で目標の86%以上を上回り達成することができた。

取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】

- ・ 児童アンケートの「本を読むのは楽しい」の項目で、肯定的な回答をする児童が、低学年95.5%、高学年82.4%、全体88.95%で目標の81%を上回り、達成することができた。
- ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合が82.4%で目標の81%以上を上回り、達成することができた。
- ・ 読書ノートの達成率は令和6年度44.1%、令和7年度63.6%で前年度を上回り、達成することができた。
- ・ 週1回、読書タイムを実施することができた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・ 心の天気を全クラス毎日入力するようにする。
- ・ 学習でも活用していけるように使い方の例などを共有していく。

取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・ 教科担任制を導入できれば、教材研究の時間も確保でき、負担が減る。
- ・ 職員会議案件などで、読めば分かるものは「読んでおいてください」で済ませると少し会議の時間も短縮できる。
- ・ パソコンを持ち帰るなど自宅で仕事をしている教員も多いので、実質残業が減っているかわからない。

取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】

- ・ 読書タイムなどは継続して取り組んでいく。
- ・ 読書ノート表彰の達成基準と指標の基準をそろえる。